

令和8年度 総務建設委員会行政視察報告書

■ 視察先: 宮崎県 都城市・小林市・えびの市

■ テーマ: 自治体 DX(生成 AI)、市民協働プロジェクト、防災 DX、上水道・防災対策

【総評】

各市とも地域特性に応じた実践的な行政運営と DX 活用を進めており、単なる技術導入に留まらず「課題起点」と「住民サービス向上」の明確な目的意識を持っていた。行政・民間・市民の協働や、トップのリーダーシップによる挑戦を許容する組織文化は、我が有田市においても大いに参考になる。

1. 都城市: 自治体専用生成 AI「zevo」の庁内運用

【視察の要点】

- **安全で効果的な AI 環境**: LGWAN 上で稼働。機密情報のアラート機能や、優秀なプロンプト(指示文)を庁内で共有・評価できる仕組みを備え、AI を知識資産化している。
- **トップの推進力**: 市長自らが旗を振り「失敗を恐れず挑戦させる」環境を整備。
- **普及の工夫**: 管理職からの巻き込みや、50 歳以上・初心者・特定職種に絞った「限定研修」を実施し、心理的ハードルを下げる工夫が有効に機能している。



【有田市への提言】

1. **現状把握と勉強会の実施**: 有田市における AI 活用状況をデジタル推進部署から情報収集し、議会・市当局を含めた勉強会を早急に実施すべきである。
2. **定型業務の自動化推進**: 大量のデータ入力・転記などの定型業務から AI 活用を進め、削減できた時間を対面サービスに還元できるよう、首長主導で推進を求める。

2. 小林市: 市民参加型プロジェクト・防災 DX

【視察の要点】

- ・ 市民協働「てなんど小林」: 方言ポスターや有名人起用を契機に、市民主導の PR 活動が活発化。情報発信団体への補助金(10 万円)もあり、移住相談や HP 閲覧数増に貢献。
- ・ 消防団ドローン隊: 指定寄付で導入し、危機管理課が管理。山間部の行方不明者捜索や被災状況確認で消防団の効率化に寄与。
- ・ 上水道の PFAS 対応: 指針値超過に対し、迅速な取水停止と水源切替を実施。



【有田市への提言】



1. 「有田弁」を活用した PR: 有田市独自の魅力や方言(有田弁)を活かし、市民と協働した情報発信を強化して U ターンや移住促進につなげるべきである。
2. ドローンの組織的・多用途活用: 有田市保有のドローンを「隊」として組織化し、被害状況調査だけでなく農政課(農薬散布)など幅広く活用していくよう推進する。
3. 水質の継続監視: PFAS 未検出の現状に慢心せず、定期検査の徹底を継続されたい。

3. えびの市: 防災対策・上水道・議会改革

【視察の要点】

- ・ 雨量観測システムの実証: 民間企業と連携実証した結果「国・県の既存データで代替可能」と判断し、費用対効果から本導入を見送る(更新しない)的確な予算判断を実施。
- ・ 水資源と防災井戸: 上質な水資源(飲料水工場立地)を保有。災害時協力井戸の登録を始めたが、現状は電動ポンプのみで停電時の課題が残る。議会改革: 議員定数を 14→10 名へ削減し、報酬を 30→40 万円に増額。



【有田市への提言】

1. **上水道のPR強化**: 有田市が誇る上質な水資源を、単なるインフラではなく市の魅力として積極的にPRすべきである。
 2. **手動式・防災井戸の拡充**: 有田市は学校等への手漕ぎポンプ設置など一歩先を行っているが、停電時を想定し、引き続き手動ポンプによる生活用水確保の準備を進める。
 3. **議会改革の注視**: えびの市の大規模な定数削減と報酬増額に伴う影響と経過を注視したい。
-